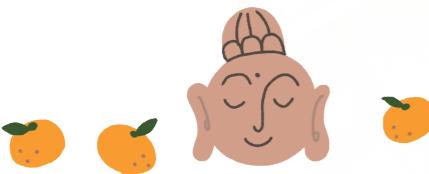


和泉そぞろ

Izumi sozoro



②父鬼街道

堺市の鳳から和泉市父鬼町、鍋谷峠を経由して和歌山県紀の川市穴伏に至る街道です。古くから利用されており、和歌山や和泉名産の木材、炭、蜜柑などを堺・大阪方面に運びました。

③覚超僧都生誕之家碑(非公開)

覚超(960?~1034)は平安時代中期に活躍した和泉国出身の天台宗僧侶です。比叡山で良源(912~980)、源信(942~1017)に師事しました。その覚超の自筆の『修善講式』(国指定重要文化財)は仏並町の旧家・池辺家に伝えられてきました。池辺家は『日本書紀』に登場する池辺直水田の後裔といいます。覚超は仏並町出生で、そこで生誕之碑が建立されました。

④不食地蔵堂

18世紀半ばから19世紀初め頃に作られた地蔵尊像だと推定されています。不食とは江戸時代に流行った念仏信仰で、月に一度の断食行を3年3ヶ月(または千日)続け、その証明として供養碑を建立しました。供養碑には「不食供養為二世安樂」と書かれたものがあり、現世(生前)と来世(死後)の世界の安樂を願うために行われたことがわかります。初期は男性メンバーもいましたが、女性が多く所属したようです。和泉、葛城山系の修験の影響があり、大阪、和歌山、奈良などで不食信仰があったといわれています。

⑤佛並寺

池辺直水田は帰化氏族の東漢(やまとあや)氏の一族といいます。『日本書紀』によると欽明14年(553?)5月条に水田は河内國泉郡の茅渟(ちぬ)の海に漂う靈妙な楠を取って天皇に献じ、天皇は画師にこの木で吉野寺の放光仏2体を彫造させたとあります。また『日本書紀』の敏達13年条(584?)には百濟から持ち帰った仏像2体をまつるために蘇我馬子が司馬達等と水田を四方に遣わして修行者を求めさせ、播磨国で高句麗人の惠便という還俗者を得たという話があります。佛並寺の寺伝では水田が馬子から授けられた仏像2体を奉安し、これが寺の起源といいます。また池辺水田の子・徳那(とくな)が弥勒菩薩、觀音菩薩の両尊を並べて奉安したという伝説などもあります。

和泉市でも最古級の歴史を有する仏並を歩く! ~縄文遺跡から神武天皇ゆかりの伝説の宮まで~

縄文時代のユニークな土製仮面が出土したこと有名な仏並町です。ここは初代天皇・神武天皇と、その兄・彦五瀬命(ひこいつせのみこと)が訪れたという伝説の神社があり、さらに『日本書紀』にも登場する池辺直水田(いけべのあたいひた)が活動したエリアで、いまも氷田の後裔の一族が住んでいるといいます。和泉市内でも最古級の歴史を有する集落・仏並を歩きます!

①槇尾川

和泉山脈の槇尾山(標高600メートル)西麓あたりが源流です。和泉市内を北上し、大津川に合流、その後、大阪湾に流れます。槇尾山中にある施福寺は西国三十三所の四番札所です。寺伝では欽明天皇の時代(539~571)に播磨国加古郡の行満上人が創建したという古刹で、役行者、行基、弘法大師などが訪れたといいます。南海バス停「槇尾山口」からは約4キロで、徒歩約1時間ほどです。



まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「和泉市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和5年(2023)2月現在のものです。和泉のまち歩きのさいにご利用してください。

■プロデューサー | 陸奥賢(観光家/大阪まち歩き大学学長) ■コーディネーター | 宝楽陸寛(NPO法人SEIN/コミュニティLab所長) ■イラスト&マップ制作 | フジワラモコ
■協力 | いづみ市民大学観光おもてなし学科受講生(北村修治/山出弘/今津弘子/砥上久美子/中野愛子/駒澤重信/前原憲二)